

(様式)

平成26年度 牟岐小学校「学力向上実行プラン」

牟岐小学校長 _____ 印

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員 会		
	職 名 ・ 校 務 等 担 当 名	氏 名
管理職	校 長 ・ 総括 教 頭 ・ 総務	
学力向上推進員	教 諭 ・ 通級指導教室担当	
委員	教 諭 ・ 教務主任 教 諭 ・ 研修主任，第1学年担任 教 諭 ・ 第3学年担任 教 諭 ・ 第6学年担任 教 諭 ・ 特別支援教育コーディネーター， 特別支援学級担任	

2 学力・学習状況における現状分析，目標等

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児 童 生 徒 の 状 況		
よ さ	<p>毎日，宿題や日記を提出している児童は90%以上であり，習慣化されている児童が多いと思われる。</p> <p>昨年度の漢字テスト平均正答率85%，計算テスト平均正答率80%で，基礎的・基本的な知識・技能は児童にほぼ身に付いていると思われる。</p> <p>1分間スピーチや発表の場で自分の考えに理由をつけて話せる児童が増えてきている。</p> <p>音読で，多くの児童が読む速さや声の調子などを工夫して文章にあった読み方ができる。</p> <p>板書をノートに視写することができる。</p>	<p>話し手に注目し，話の内容を聞き取ることが苦手な児童が多い。また，語彙が少ないことや文章を書く機会が少ないことから，目的や意図に応じて事柄を整理して簡潔に書くことに課題が見られる。そのほか，読書量が少ないことから，本や文章を読み自分の考えを広げたり深めたりすることが苦手な児童も多い。</p> <p>算数科において中・高学年の学習内容の定着が不十分な児童もいる。</p>
	具体的目標(目指す子どもの姿)	達成状況
	<p>宿題や日記を欠かさず提出できる。</p> <p>漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。</p> <p>校内で設定した「話す」「聞く」「読む」「書く」の到達目標を達成できる。</p>	<p>90%以上の児童が毎日，宿題や日記を提出する。</p> <p>漢字や計算などの基礎的・基本的な事項についての定着確認テストで正答率85%以上にする。</p> <p>「話す」「聞く」「読む」「書</p>

	く」の到達目標でB評定の児童の割合を80%以上にする。	
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<p>① 適切な内容や量の宿題を出し、日記の書き方を指導したり日記のテーマを提示したりする。</p> <p>② 各教科等における問題解決的な学習を行うとともに、「話す」「聞く」「読む」「書く」活動の充実も図る。</p> <p>③ 効果的なT T指導について研究することにより、「わかる授業・できる授業」づくりに努める。</p> <p>④ 朝の活動に漢字・計算の時間を設定し、継続的にドリル学習をする。</p> <p>⑤ 月1回、学力向上タイムを設定し、児童の課題改善に努め、基礎的・基本的な学力の定着を図る。</p> <p>-----</p> <p>*中間期の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業研究会では、座席表活用やK J法を用いたグループ協議等を取り入れ、教員のさらなる授業力向上を図る。 学力向上タイムや業間休みを活用し、児童のパソコン操作技能を身に付けられるようにする。 	<p>① 宿題や日記の提出状況を把握し、未提出児童に対して適切な指導・支援をする。</p> <p>② 一人一回ずつ課題に応じた研究授業を行う。 板書計画をし、ノート指導を充実させる。</p> <p>③ 効果的なT T指導として座席表の活用や教師の役割分担について研究する。</p> <p>④ 朝の活動計画表を作成し、定着確認テストを行う。</p> <p>⑤ 学力向上タイムを活用し、児童の課題を改善する学習を行う。</p>	
達成状況を踏まえた改善事項		

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		
よ さ	<p>方法や手順がわかる学習には、積極的に取り組む児童が多い。</p> <p>朝会や集会など、全校児童が集まる場で自分の考えを発表できる児童が増えてきた。</p> <p>ペア学習やグループ学習でお互いの考えを交流し学び合うことができるようになってきた。</p>	<p>自分の課題や目的に応じて聞き取ったりまとめたりする力、必要な情報を選択し、筋道を立てて説明する力に課題がある。</p> <p>必要な情報を関係付けて条件に即して書いたり、相手や目的に応じて構成や記述の工夫をしたりするような「書く」ことが苦手な児童が多い。</p>
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
<p>目的に応じて根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを進んで話したり書いたりできる。</p> <p>話し手の意図を考えながら聞き、自分の考えと比較し、質問したり感想を述べたりすることができる。</p> <p>話し合いにおいて、司会や参加者の役割を理解し、それぞれの役割を果たすことができる。</p>	<p>「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しくない」児童の割合を85%以上にする。</p> <p>「友達やグループで話し合っ解決する学習をよくする」児童の割合を80%以上にする。</p> <p>「自分の考えと比べながら相手の意見を聞き、質問したり感想を述べたりすることができる」児童の割合を80%以上にする。</p> <p>「発表の仕方や話し合いの仕方がよくわかっている」児童の割合を85%以上にする。</p>	-----
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<p>① 学習の展開や学習形態を工夫することにより、多様な意見交流の場面を設定する。</p> <p>② 一人一人の児童がじっくりと思考できるように教員は待つことを心がけるようにする。</p>	<p>① 「児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合を85%以上にする。</p> <p>② 「児童の発言や活動の時間を確保して</p>	

<p>③ 相手や目的に応じて「話す」ことができるように、授業や1分間スピーチ、集会活動での意見発表等において「話す」指導をする。</p> <p>④ 児童が相手や目的に応じて「書く」ことができるように機会を捉えて「書く」指導をする。</p>	<p>授業を進めることができ た」教員の割合を85%以上に にする。</p> <p>③ 「児童がみんなの前で話せるように場の設定や指導ができた」教員の割合を80%以上に する。</p> <p>④ 「児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導ができた」教員の割合を80% 以上に する。</p>	
<p>*中間期の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業でグループや全体での協同的な学習を充実させ、意見を交流し合うようにする。 ・ 学校行事や集会を振り返り、日記や作文等、文章でまとめる機会をとるようにする。 		
達成状況を踏まえた改善事項		

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		
よ さ	<p>学習のめあてを把握し自己評価することにより、主体的に授業に参加する児童が増えてきた。「家庭学習の手引」を活用し、約70%の児童が家庭学習をしている。</p> <p>自主学習ノートを用いて自分の興味がある課題について意欲的に学習する児童が増えてきた。</p> <p>与えられた課題については根気よく取り組む児童が多い。</p>	<p>課題</p> <p>自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。昨年度、1日10分以上読書をする児童は55%で、全体的に読書量が少ない。</p>
	具体的目標(目指す子ども)	成果指標
	各教科等の学習で、めあてを持ち見通しを立てたり振り返ったりする主体的な学習活動をする。	「各教科等の学習で、学習のめあてを持ち、振り返ることができた」児童の割合を80%以上
達成状況		

<p>家庭学習や苦手な課題についても意欲的に取り組むことができる。</p> <p>読書習慣を身に付け、本や文章を読むことで語彙量を増やし、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p>	<p>にする。</p> <p>「学校の授業の復習をしている」児童の割合を80%以上にする。</p> <p>「家庭学習の手引き」を活用している児童の割合を80%以上にする。</p> <p>1日10分以上読書をする児童の割合を80%以上にする。</p>	
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<p>① 問題解決的な学習で授業を展開し、学習のめあての提示や振り返りの時間を確保する。</p> <p>② 「家庭学習の手引」や「家庭学習チェック表」を作成し、家庭学習や読書習慣に目標を持たせて取り組ませる。また、中学生や他学年の自主学習ノートを参考に自分なりの学習に取り組ませる。</p> <p>③ 授業時間以外にも児童のニーズに応じて学習支援ができる校内体制を整え、児童の基礎的・基本的な学力の定着を図る。</p> <p>④ 「読書カード」に読んだ本を記録し読書への意欲を持たせる。</p> <p>⑤ 「めざせ あいさつ日本一」運動の推進を図り、楽しい学校づくりに努める。</p> <p>⑥ 牟岐町保・小・中一貫教育を推進するとともに、学力向上に努め信頼される学校をめざす。</p>	<p>① 学習のめあての提示や振り返りを必ずする。</p> <p>② 「家庭学習の手引き」や「家庭学習チェック表」を活用している児童の割合を80%以上にする。</p> <p>③ 自主学習プリントコーナーや赤ペンボックスの利用を児童に勧める。</p> <p>④ 児童一人一人の年間読書冊数目標の80%以上の冊数に到達できるように意欲を喚起する。</p> <p>⑤ あいさつができている児童の割合を100%にする。</p> <p>⑥ 保小中連携オープンクラスを年2回実施する。また、「学校へ行くのが楽しい」児童の割合を90%以上にす</p>	
<p>*中間期の見直し</p> <p>・ 中学校の定期テスト期間に合わせて小学校では家庭学習チェック週間を設定し、児童の家庭学習</p>		

<p>の定着化や充実化を図ることができ るようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全校一斉に1時間目終了後10分間の読書タイムを設け、児童の読書習慣の定着をより一層すすめる。 ・ 町立図書館からの集団貸し出しを利用することで、様々な図書に親しみ、読書を楽しむことができるようになる。 ・ 生徒会と児童会を中心に全校で朝のあいさつ運動に取り組む。 	<p>る。</p>	
<p>達成状況を踏まえた改善事項</p>		
<p></p>		